

「紀要」の刊行に寄せて

理事長

平川 彰

国際仏教学大学院大学の『紀要』第一号を学界におくるに際して、一言ご挨拶を申し上げたい。われわれの大学は、大学院のみの大学であり、しかも「仏教学専修」の一博士課程のみを有することじんまりとした大学である。しかし小さな大学であるが、専任教授八名を擁して、教員を効果的に配置して、インド哲学・インド仏教・中国仏教・日本仏教等に関して、学生を指導しうる態勢を整えている。専任教授八名といえは少ないようであるが、他大学の大学院の「仏教学専門課程」の陣容に比較すれば、決して遜色のあるものではないと考えている。そして学生の募集人員も少ないので、教授は学生の研究テーマごとに、きめこまかい個人指導をなすことができ。この個人指導の点に、本学の特色を発揮しうると考えている。さらに学生の知見をたかめるために、広い範囲から講師を委嘱し、講師による講義を充実して、個々の学生の学問的要求に應じうるように準備を整えている。

なお本学の図書館は、蔵書の数が多いとは言えないが、長年月にわたって仏教の専門書を蒐集してきたので、仏教研究に限れば、充実した図書館であると考えている。そのために本学の図書館は、海外の仏教研究者からも

注目されており、本学の図書館所蔵の書物によって研究をするために、長期にわたって図書館に滞在する外国の学者も少なくない。われわれとしては、もちろんそういう学者の滞在を歓迎するが、そういう学者と、本学の教官や学生諸君が積極的に交歓して、国際性を身につけることを期待したい。

以上の如く本学は、小さいながらも教員も充実し、研究設備もとのつており、キャンパスも静かなところに位置しており、環境もよい。とくに学生の募集人員が少ないので、教授は学生諸君の研究を責任を持って指導することができる。一般に大学院は、独創的な研究をして、学界に貢献できるように成果を挙げることを目的としているが、しかし学部を卒業して、大学院に進学した学生が、誰もが直ちに研究成果を挙げうるとは限らない。学生にはそれぞれ個性もあるし、研究目的も異なっている。故に大学院に進学しても、適切な指導を受けなければ、思うように研究成果を挙げることは容易でない。とくに多くの大学では、大学の上に大学院を設置しているから、教授は学部の学生と大学院の学生との両方の指導を、受け持たねばならない。そのために大学院の学生指導は十分とは言えない点もあろう。その点、本学は大学院のみの大学であるから、入学生には研究題目の選定から学位論文の完成まで、指導教員が責任を持って指導することができる。実りのある学問研究を望む学生諸君の入学を期待する所以である。